

# UTSUNOMIYA **Blitzen**

## **TIMES**

February.2023

## **Vol.80**

### **Race Report**

- 01.22 JCX 第8戦さおうさまCUP
- 01.29 JCX 第9戦東海シクロクロス愛知牧場
- 02.12 シクロクロス東京2023

### **Special Present**

- JCL 南幕戦
- かんせき真岡菅賀ロードレース
- かんせき宇都宮清原クリテリウム





2023.1.22 宮城県蔵王町(蔵王町総合運動公園)  
JCCX第8戦さおうさまCUP 東北シクロクロス



# 沢田移籍後初優勝!! チームとしても今季初優勝

シクロクロス全日本選手権から1週間。JCCX第8戦さおうさまCUPに新加入の沢田時が出場。小坂光は1か月前に落車で上腕骨を骨折し、全日本はなんと不出場したものの、今レースは大事を取って欠場となった。小坂の無念も背負い、宇都宮ブリッツエンにとって今季シクロクロス初優勝を任された沢田は、シケインでのパニーホップの精度を上げようと、レース1週間はそのトレーニングにも取り組んだ。

この大会には沢田は初めての出場であったものの、スタート前から優勝候補の筆頭に挙げられていた。ただし、レースに絶対はない。シクロクロスでキーとなるホールシヨットを沢田は3番手通過となったが、そこで焦りを見せなかった沢田は、最初のシケインをトップで入り、練習を重ねたパニーホップでギアを上げると、徐々にライバル

たちを離し始める。3周目には2位集団に14秒差をつけて独走状態に。その後も独走で周回を重ねる沢田。だが、シクロクロスは1回のパンク、1度の落車で順位の大入れ替えもある。実際この日のコースは泥で滑りやすい箇所もあり、1周目に発生した落車をうまく回避した沢田は、それをきっかけに先頭に出た。つまり、沢田が順位を落とす可能性も大いにある。

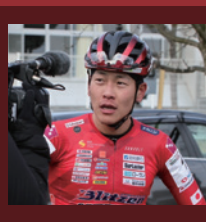
沢田はレースに集中し、優勝に向けてペダルを回す。そしてついに他の追走を諦めさせる独走状態のまま、45秒ほどの差をつけてフィニッシュ。宇都宮ブリッツエンに移籍して初優勝。チームとしても今季シクロクロスレースで初優勝。今年加入したメカニックの荻田晴に託しても人生初の優勝経験。そして西村大輝新監督に託しても、就任初優勝と、初物つくしの完勝となった。

お陰様で優勝することができた。少し泥も残っており、試走のときは難しい印象だったが、本レースでは乾いてくれてよかった。1周目落車が発生したが、うまくすり抜けることができた。そこからはミスなく、踏むところは踏んで、しっかり走ることができた。



### 【沢田時のコメント】

お陰様で優勝することができた。少し泥も残っており、試走のときは難しい印象だったが、本レースでは乾いてくれてよかった。1周目落車が発生したが、うまくすり抜けることができた。そこからはミスなく、踏むところは踏んで、しっかり走ることができた。



2023.1.29 愛知県白井市(愛知牧場)  
JCCX第9戦 東海シクロクロス愛知牧場

# 沢田と竹内選手の二騎打ち 出し切った上での準優勝

負傷中の小坂光は欠場し、一週前のさおうさまCUPで優勝した沢田時のみの出場となった東海シクロクロス。

アップダウンの激しい雄大なコース設定で、この日は超ドライコンディション。高速レースが予想される中、沢田は最前列でスタート。順調にホールシヨットを取り、2周目には先頭グループを形成。沢田のほか、竹内遼選手(GHISALORACING)、竹之内悠選手(Cinecine-ivision)らが含まれ、3周目には沢田と竹内選手の二騎打ちとなった。

4周目、3位争いのバックとの差は12秒。沢田も竹内選手もパニーホップでシケインを越え、お互い先頭を交代しながらも、テールトゥーノーズで周回を重ねる。全10周中の残り4周の頃には、後続との差が43秒に開き、優勝争いはこの2人に絞られた。

強風の中、2人がハイスピードでマッチアップする傍らで、スタート時には72名いた選手も、残り2周にはとうとう41名に。2人はお互い高負荷を掛けて走りながらも、冷静に仕掛けどころを模索する様子。竹内選手が前を引く時間が長く、沢田は後ろで駆け引きが続いていた。

そしてファイナルラップへ。長いランデブーに別れが告げられたのは、フィニッシュまで200mあたりに設置されたシケインだった。わずかに先行した竹内選手が、そのままの勢いでフィニッシュラインに飛び込み1秒差で優勝。2人は後続を1分36秒も離して圧倒的な強さを見せたが、わずか1秒の差は勝負の世界では大きく、沢田は惜しくも2位となった。ただ、優勝した竹内選手は全日本選手権ではスタート直後の落車に巻き込まれ、ほぼ最後尾スタートの状態から6位まで上げた猛者だ。2人とも全日本の悔しさを抱えつつ、真つ向勝負した結果となったレースと言えるよう。

てみたり、階段を利用してペースアップしてみたりしたが決められなかった。コース前半は向かい風が強く、2人とも踏んで前に進められない状態で、単独で先行するには難しいと思いながら、最終周まで我慢していった。



### 【沢田時のコメント】

思った以上に風が強かった。そのせいもあって突き放せず、牽制も入ったりして、最後までもつれてしまった。最終回は位置取りがうまくいけば勝てる自信があったが、シケインで竹内選手を寄せきれず、最後までギリギリ抜かれてしまった。かなり悔しいが、振り返ってみてもミスや後悔はないし、力勝負で負けたのかなと思う。自分の力は出し切れた。

ずっと一騎打ちが続いた。階段セクションで若干差が開くのはわかってたが、そこだけでは差をつけられないので、その手前で仕掛け







# 今季最終戦のCXは 小坂・沢田揃っての出場

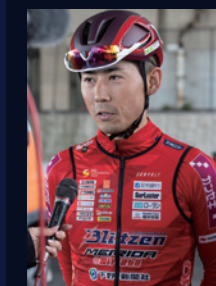


五輪の影響や「口ナ禍」に翻弄され、5年ぶりの開催となったこの大会に、小坂光と沢田時が出場。お台場は海浜公園の名の通り砂浜が特徴だ。ライバルはやはり今季無敗の織田聖選手(弱虫ヘダル)。ただ、1週間前のCX世界選手権(オランダ)に出場しており、疲れが懸念されるだろう。幾重にも重なったギャラリーの花道をトップでスタートし、ホールショットを取ったのは沢田だ。小坂もそれに続き、2周目に入っても1位沢田、2位小坂の順で進む。しかしここで2人を一気に抜きに掛かったのが竹之内悠選手(Cineer-ivision)だ。竹之内選手は砂を得意としており、そのなめらかなペダリングはライバルたちも惚れ惚れするほど。

5周目に入ると沢田と竹之内選手が先頭を形成。そして13秒遅れで3位につけていたのが、前大会で優勝した竹内遠選手(GHISALORACING)だ。小坂は4周目の砂区間のミスで6位に後退。そして注目の織田選手は11秒差の4番手で、ここまで一度も先頭を走らずにきていた。

6周目になると、得意の砂地で竹之内選手が沢田を突き放しにかかる。7周目では竹之内選手が最速ラップをたたき出して沢田に10秒ほどのアドバンテージをつけると、一気に独走体制に。また竹内選手が沢田をかわし、1位竹之内、2位竹内、3位沢田の順で8周目になると、次周では竹内選手がシケインで落車をしてしまい沢田が2位に浮上。しかし竹之内選手の背中はずいぶん遠く、その差は42秒。小坂は6番手をキープ。

最終周も竹之内選手が独走し、そのままフィニッシュへ。沢田はねばりの2位、小坂は4位まで順位を上げ、シリーズ年間順位沢田2位、小坂3位でシーズンを終えた。チームのCX2名体制はまだ始まったばかり。研鑽を積み、また今冬には、私たちに新しい景色を見せてくれるに違いない。



### 【小坂光のコメント】

1か月ぶりのレースで、序盤のペースがキツく、中盤は足が重くなってしまった。でも終盤は集中し直して4位。できれば表彰台に乗りたいかったが、ケガも治ってきて、フィジカルも順調に戻ってきているので、また次シーズン頑張りたい。今シーズンもたくさんの応援ありがとうございました。ケガで思うようなシーズンにはならなかったが、常に応援してくださるサポーターの皆さんのおかげで頑張ってきた。次は皆さんにもっといい結果を伝えられるように頑張りたい。



### 【沢田時のコメント】

スタートも決まり、作戦通りで、竹之内選手との一騎打ちに持ち込めた。キツかったが、チャンスはあると思って走っていたが、砂区間の差が埋められなく、今回も出し切った2位。これは次に繋がる2位で、成長していきたい。JCXランキング2位と3位で、今日もこの赤いジャージで先頭を走ってとても目立っていたと思うので、次のシーズンはワンツーで終えたい。シーズン途中の移籍となったが、快く迎えてくれて、たくさん応援していただいた嬉しかった。ありがとうございました。



# 今年も 栃木で 開幕戦!

三菱地所 JCL  
プロロードレースツアー  
2023

**3.25 SAT**  
カンセキ真岡芳賀ロードレース  
真岡井頭公園周辺特設コース

**3.26 SUN**  
カンセキ宇都宮清原クリテリウム  
清原工業団地特設コース

↑レース情報配信中↑

真岡芳賀ロードレース  
宇都宮清原クリテリウム  
公式サイト  
<https://www.blitzen-hondanip/>

真岡芳賀ロードレース  
宇都宮清原クリテリウム  
公式ツイッター  
@blitzenrace

宇都宮ブリッツェンが所属するジャンサイクルレーク（JCL）が、今年も栃木で3月末に開幕！

まず第戦は3月25日（土）真岡井頭公園の周辺道路でおこなわれるカンセキ真岡芳賀ロードレース。昨年、「ロードレースで勝利」を掲げた小野寺玲が、公式戦初レースで早くも優勝したレースだ。今年もその再現となるか？ または今年移籍したフオンチンカイが、欧州のプロチームで培った実力を見せるか？

そして第二戦は翌日26日（日）に清原工業団地内でおこなわれるカンセキ宇都宮清原クリテリウム。こちらも注目は小野寺もともとクリテリウムを得意とし、昨年は自身5連覇もかかっていたが、5位に甘んじてしまった。実は昨年はロード24位、クリテリウム1位、昨年はロード1位、クリテリウム5位。今年こそロード、クリテリウムの2連勝を実現してくれるか？

いずれもイベントやグッズ、飲食などの出店が予定されており、レースだけでなく、1日楽しめるものとなっている。何より、新生宇都宮ブリッツェンの選手・スタッフが勢ぞろいするレースだ。ぜひ現地でご声援いただき、それをベタルに込めて勝利に結びつけられれば、みなさん、共に戦いましょう！



私たちは宇都宮ブリッツェンを応援しています。